鹿児島大学 同窓会連合会報

No.28

レンゲソウに囲まれる農学部附属農場(上)と
農学部附属農場で保存している鹿児島の伝統野菜(下左:ナス、下右:ダイコン)
(写真提供:農学部附属農場)

特別寄稿

思えば鹿児島大学歯学部活動、長期の33年

佐藤　友昭　(歯学部同窓会副会長)

自然と向き合う土木工学系学科の中で 国立大学唯一の学科「海洋土木工学科」の設立秘話?

武若　耕司　(工学部海洋土木工学科教授)

鹿児島大学同窓会連合会
2019年7月

鹿児島大学同窓会連合会会則

第１章　総　則

（名称）

第１条　本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

（目的）

第２条　本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

（事業）

第３条　本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

（１）鹿児島大学との連携及び協力

（２）各学部同窓会間の交流及び連携の推進

（３）その他本会の目的に沿った事業活動

（支部）

第４条　本会に支部を置くことができる。

第２章　会　員

（会員）

第５条　本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員をもって組織する。

各学部同窓会

鹿児島大学法文学部同窓会

鹿児島大学教育学部同窓会

鹿児島大学理学部同窓会南明会

鹿児島大学医学部同窓会

鹿児島大学歯学部同窓会

鹿児島大学工学部同窓会

鹿児島大学農学部あらた同窓会

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

鹿児島七高同窓会

第３章　役員等

（役員）

第６条　本会に次の役員を置く

（１）会長　１名

（２）副会長　各学部同窓会からそれぞれ１名

（３）代表幹事　１名

（４）幹事　各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ１名

（５）評議員　各学部同窓会からそれぞれ４名

（６）監事　若干名

（７）その他会長が認めた者

（役員の選任）

第７条　会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

（役員の任務）

第８条　会長は本会を代表して会務を総理する。

２　副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

３　代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

４　幹事は本会と各学部同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

５　評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。

６　監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

（役員の任期）

第９条　役員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

（名誉会長及び顧問）

第10条　本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

２　名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。

３　名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第４章　会　議

（会議）

第11条　本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

（総会）

第12条　総会は、第６条各号に掲げる役員をもって組織する。

２　総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。

（１）役員の選任に関する事項

（２）事業計画及び事業報告に関する事項

（３）予算及び決算に関する事項

（４）会則の改廃に関する事項

（５）その他会長が必要と認めた事項

３　総会は、毎年度１回、会長が招集し、その議長となる。

４　総会は、第１項に規定する役員の過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（役員会）

第13条　役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

２　役員会は、次に掲げる事項を審議する。

（１）総会に付議すべき事項

（２）本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

（幹事会）

第14条　幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

２　幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第５章　会　計

（経費）

第15条　本会の経費は、各学部同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

（会計年度）

第16条　本会の会計年度は、４月１日から翌年の３月31日までとする。

（監査）

第17条　会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第６章　事務局等

第18条　本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

２　事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

（雑則）

第19条　この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　　則

この会則は、平成17年４月７日から施行する。

附　　則

この会則は、平成19年４月６日から施行する。

附　　則

この会則は、平成30年４月７日から施行する。

附　　則

この会則は、平成31年４月６日から施行する。

第28号の会報発行（2019年）に寄せて

同窓会連合会　会長　冨永　茂人

「平成」の30年が平穏無事に終わり、この５月１日から「令和」の新時代に入りました。10万人を超える鹿児島大学のOB、OGの皆様が、全国各地や遠くは海外でご活躍中でいらっしゃるのはご同慶の至りに存じます。

さて、本年度の同窓会連合会総会で、前会長の江口正純氏から連合会会長という重責を引き継ぎました。江口前会長は平成16年の同窓会連合会発足時から同窓会連合会会長として14年以上にわたり指導力を発揮され、それまでは各学部の同窓会が独自に活動していたものを、全学的に統一した活動ができる組織にまで育てあげられました。総会後の「鹿児島大学卒業生の集い」という懇親会の参加者も毎年増加し、ついに今年は200人を超えるまでの盛況になりました。このように、江口前会長の功績は偉大なものがあり、心から感謝申し上げます。

新会長を引き継ぎましたが、もとより微力で、上記のような多大な功績を築き上げられた江口前会長のようにはできませんが、「令和」という新時代に鹿児島大学同窓会連合会としての活動ができますよう精一杯努めますので、今後とも同窓会連合会のためにご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会連合会は鹿児島大学の９学部の同窓会の連合体として発足しました。各学部の同窓会は歴史や会員数が異なり、平素はそれぞれ独自の活動を行っておりますが、連合会として一致団結して、国立大学法人鹿児島大学と連携し、母校鹿児島大学の教育・研究・地域貢献活動の発展のために協力していこうではありませんか。

「同窓会連合会」では、【幹事会】→【役員会】→【総会】という民主的な手続きで意思決定を行ってきました。このような良い習慣を踏襲しながら、代表幹事および今年度から連合会の事務を担っていただくことになった鹿児島大学総務部総務課と力を合わせて「同窓会連合会」を運営して行きたいと考えております。「各学部同窓会」におかれましては、それぞれ独自の同窓会活動の活性化とともに連合会活動にもご協力を賜りますようお願い申し上げて、新しい会長としてのご挨拶とさせていただきます。

目　　次

第28号の会報発行（2019年）に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	9
特別寄稿（歯学部、工学部）	18

学　長　挨　拶

鹿児島大学長　佐野　　輝

鹿児島大学同窓会連合会会員の皆様方におかれましては、日頃より本学の教育・研究並びに大学運営等に関しまして、ご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。また、鹿大「進取の精神」支援基金につきましては、各同窓会会員の皆様方から多大なご支援を頂き、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、私は、これまで、鹿児島大学医学部長・大学院医歯学総合研究科長として学部・研究科の運営に６年間携わり、この度、４月１日付けで文部科学大臣より鹿児島大学長に任命されたところであります。昨今の大学を取り巻く状況の変化はめまぐるしいものがございます。その中で鹿児島大学の学長という、大変重たい責任を担うこととなりましたが、鹿児島大学が社会に必要とされる大学へと発展すべく、気を引き締めて重責に取り組む所存でございます。ここに、私の学長としての所信を紹介させていただければと思います。

国立大学が法人化されて以降、鹿児島大学を含め各大学は、財政面を含め、厳しい状況に置かれているところではありますが、私としましては、本学が「南九州から世界に羽ばたくグローカル教育研究拠点・鹿児島大学」となるよう、教育研究環境の充実を図り、スピード感を持って改革にあたる所存であります。

具体的には、南九州・南西諸島域を中心とした地域が抱える課題に対処するため、行政や産業界等としっかりと連携をとり、昨年設置しました「南九州・南西諸島域共創機構」の機能も十分に活用するとともに、教育研究成果を活かし、更なる社会貢献活動を推進していきたいと考えております。また、人材育成に関しては大学院を含めた入試・教育制度改革で国際的に活躍できる人材を育成していきます。本学の卒業生であります稲盛和夫名誉博士からのご支援により昨年、設立しました鹿児島大学21世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業「ＵＣＬ稲盛留学生」や文部科学省に採択されました「世界展開力強化事業」など国際化に向けた取組を加速させ、鹿児島大学の地域の発展とともに歩む真のグローバル（グローカル）化を実現させていきたいと考えております。研究面においては、国際レベルの研究を推進するため、大学内に存在する多くの研究シーズに開花するチャンスを与え、先端レベルの基礎研究から応用研究までを支援促進し、新たなイノベーション創出を図っていきたいと考えております。管理運営のため、大学運営の最終責任を負い、課せられた責務を果たします。財務基盤の強化を図り、経営を含めた大学改革・ガバナンス改革を行い、継続性のある大学の発展を目指します。

これからの任期４年間、以上のような方針をもちまして、改革を進めていきたいと思っておりますが、鹿児島大学のこれまでの伝統も大切にしつつ、時代の変化に合わせた継続的な自己変革を果たして参りたいと思います。さらには、今年は、鹿児島大学創立70周年という節目の年でもあります。12月には、70周年記念式典を開催しますので、同窓会の皆様方におかれましては、ご支援、ご指導下さいますようお願い申し上げます。最後に、同窓会連合会の皆様方のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

鹿児島大学の近況

－進取の気風あふれる総合大学－

（2018年11月から2019年４月までのトピックス）

○第 34 回京都賞受賞者を囲む鹿児島コロキウムを開催しました（11 月 15 日）

11月15日、京都賞受賞者鹿児島講演会に先立ち、部門ごとの受賞者を囲む鹿児島コロキウム（鹿児島大学主催）を鹿児島市内のホテルで開催しました。

柏原正樹博士（数学者、京都大学数理解析研究所特任教授）受賞の基礎科学部門では、與倉昭治理工学研究科教授が進行役となり、宮嶋公夫鹿児島大学名誉教授（元理工学研究科教授・元理学部長）、教育学部の有家雄介准教授、理工学研究科の中岡宏行准教授、村上雅亮准教授、近藤剛史准教授、田中恵理子助教が参加しました。参加者の簡単な自己紹介の後、初めに中岡准教授が「Extriangluated category」を、次に有家准教授が「頂点作用素代数とモジュラー微分方程式」を発表し、柏原博士からは多くの質問や貴重なアドバイスを頂きました。また、進行役の與倉教授から、柏原博士の京都賞受賞の贈賞理由となった研究テーマである「D 加群」が関係する数多くの研究分野を示した連関図が参加者全員に配布され、それに基づきいくつかの質問がなされ、活発な意見交換がなされました。コロキウムは柏原博士のお人柄もあってか非常にアットホームな雰囲気の中で進み、有意義かつ活発な意見交換がなされ時間が足らない程でありました。

ジョーン・ジョナス氏（美術家／アメリカ）受賞の思想・芸術部門では、太田純貴法文系准教授が進行役となり、下原美保教育系教授、宮薗広幸霧島アートの森学芸課長、および、法文学部人文学科の学部生である崎本彩さんが参加し、議論を通してジョナス氏の芸術作品の制作に対する姿勢・発想に深く触ることができました。芸術における時空間概念について意見を交換したり、個別の作品のコンセプトや、フェミニズムなど制作に関して影響を受けた思想や芸術文化の動向、作品における音楽の重要性などについても知見をいただきました。また、ご自身が受けてきた教育や環境、マサチューセッツ工科大学における教育活動の内容についても語っていただくなど、ジョナス氏の活動を多角的な観点から捉える契機となりました。

各分野最高峰の受賞者と直接議論が出来たことは、鹿児島コロキウム参加者にとって大きな財産となりました。受賞者が研究を通じて築き上げてきた人生観や世界観にも触れることができ、本学における教育研究のさらなる発展に資する貴重な機会となりました。

○エボラウイルス病に対する治療薬候補となる新規化合物を同定～米国 Texas Biomedical Research Institute のバイオセーフティーレベル４（BSL4）実験施設を用いた国際共同研究の成果～（11 月 20 日）

本学難治ウイルス病態制御研究センターの馬場昌範 教授と外山政明 特任助教は、Robert A. Davey ボストン大学教授〔前 Texas Biomedical Research Institute（TXBiomed）教授〕、櫻井康晃 長崎大学特任研究員（前 TXBiomed 研究員）、榊原紀和徳島文理大学講師らと、TXBiomed のバイオセーフティーレベル４（BSL4）実験施設を用いた国際共同研究により、エボラウイルスの感染を強く阻害する新規化合物を同定することに成功しました。

本研究成果は、2018年11月３日に国際専門学術誌「Antiviral Research」のオンライン版に掲載されています。

エボラウイルス病（通称、エボラ出血熱）は、エボラウイルスが人に感染することで引き起こされる非常に致死率の高い感染症ですが、未だ認可された治療法はありません。2013年から2016年には西アフリカにおいて11,000人以上の死者を出し、現在もコンゴ民主共和国においてアウトブレイクを起こしており、早急な治療薬の開発が切望されています。

馬場教授らは、エボラウイルス病患者において弱いながらも一定の治療効果が示唆された抗マラリア薬であるアモジアキンに着目し、その抗エボラウイルス活性を増強するために、当時研究室に保有していた約70種類の誘導体を、以前より抗エボラウイルス薬に関して共同研究を行っていた TXBiomed に送りました。TXBiomed では Davey 教授と櫻井研究員が、それらのエボラウイルスに対する活性を、同研究所の BSL4 施設において、培養細胞に用いて検討したところ、アモジアキンよりも活性の高い複数の化合物を同定しま

した。また、それらの化学構造を解析したところ、特定の２か所の構造を変えることで、細胞に対する毒性を増強させることなく、抗エボラウイルス活性のみを増強出来ることを明らかにしました。そこで、それら２か所の構造を同時に変えた一連の化合物を榊原講師が新たに合成したところ、より強力な抗エボラウイルス活性を持つ化合物を複数同定することに成功しました。

今後は、本研究において同定された化合物の治療効果を動物実験によって検証する予定であり、既に試験用薬剤の準備も完了しています。動物実験によって効果が確認されれば、既に本学と TXBiomed で国際特許も共同出願済であることから、エボラウイルス病に対する新規治療薬の開発に繋がると期待されます。

○「鹿児島県女性活躍推進優良企業知事表彰」で本学が表彰を受けました（11 月 21 日）

このたび、本学は、女性の管理職等への登用や能力開発、子育て支援、全社を挙げた職場風土づくり等に積極的に取り組み、他の事業者の模範となる企業であるとして、町田酒造株式会社とともに「鹿児島県女性活躍推進優良企業知事表彰」にて表彰を受けました。

11月21日（水）、鹿児島県女性活躍推進フォーラム内で表彰が行われ、三反園訓鹿児島県知事から前田芳實学長へ表彰状の贈呈が行われました。

その後、前田学長より本学の取組について事例発表があり、女性活躍推進のための意識醸成や女性のエンパワーメント、環境整備の取組のほか、女性研究者増加策や次世代育成、地域貢献といった大学ならではの取組等について紹介が行われました。

○大学院連合農学研究科が設立 30 周年記念行事を開催しました（11 月 30 日）

11月30日、稲盛会館キミ＆ケサメモリアルホールにて、大学院連合農学研究科設立30周年記念式典および記念講演会を盛大に開催し、国内外から約180名が参加しました。

記念式典は、本学の前田芳實学長による式辞の後、籾井和朗連合農学研究科長がこれまでの経過を報告しました。続いて構成大学を代表し、宮﨑耕治佐賀大学長代理の後藤昌昭理事、大城肇琉球大学長、および小幡泰弘文部科学省高等教育局専門教育課長代理の飯塚智久教育振興係長が、30周年を迎えた当研究科への祝意を表明するとともに、将来、学生が農林水産学分野のトップランナーになることや、農林水産業の指導者として活躍することへの期待を述べました。

式典後の記念講演会では、当研究科で学位を取得し各国で活躍する４名の方々と、当研究科に長年貢献した元研究科長の方に講演いただきました。各国で活躍する方々としては、インドネシアで最も権威ある大学の一つであるボゴール農科大学にて学長を務める Arif Satria 学長をはじめ、スリランカで最も権威ある大学の一つであるスリジャヤワルダナプラ大学の Sampath Amaratunge 総長、スマトラ・ウタラ大学の Mohammad Basyuni 准教授（インドネシア）、中国科学院植物研究所の王亮生教授（中国）が、連大に対するそれぞれの思いと将来の展望について述べられました。また、元本学連合農学研究科長で本学名誉教授の杉元康志九州栄養福祉大学教授は、連大の歴史と今後の期待について述べられました。参加者は、農林水産業の分野で世界的に活躍する登壇者たちの講話に聞き入り、熱心に耳を傾けていました。

講演会終了後は、鹿児島サンロイヤルホテル（鹿児島市）にて祝賀会が開かれました。平成の時代とともに歩んできた同研究科が、これからも、日本はもとより国際社会で先導的に活躍できる人材を輩出すること、また、来る50周年に向けてますます発展していくことを祈願し、記念行事は終了しました。

○ミャンマー連邦共和国・獣医科学大学と大学間学術交流協定を締結しました（12 月 24 日）

12月24日、前田芳實学長がミャンマー連邦共和国を訪問し、ミャンマー連邦共和国・獣医科学大学と大学間学術交流協定締結の調印式及び同大学マーマーウィン学長の表敬訪問を行いました。

ミャンマー連邦共和国・獣医科学大学は、平成15年から平成24年まで本学農学部家畜生産学講座に同大学の卒業生３名が在籍し、前田芳實教授（当時）等の指導の下学位を取得しており、また、本学家畜育種学研究室の下桐准教授が獣医科学大学を訪問し、ミャンマー在来馬に関する共同調査を行った実績があります。今後の交流については、持続可能な農学及び獣医学等についての相互の研究協力に関する協議を進め、ミャンマーの獣医・畜産に関する共同研究を発展させていく予定であります。

調印式当日は、ミャンマー連邦共和国・獣医科学大学の教職員・学生を対象に前田学長が「Outline of

Kagoshima University」、宮本共同獣医学部長が「Veterinary Education of Kagoshima University」、下桐農学部准教授が「Genetic Research on the Native Cattle in Myanmar」と題して講演会を開催し活発な意見交換を行いました。また、調印式後には、本学友好大使（本学の帰国留学生等を通じて留学情報、研究情報等を発信・収集し、留学生交流及び国際学術交流を図ることにより本学の国際化を推進することを目的とする）に獣医科学大学卒業生のマーマーウィン学長をはじめ8名の方々を委嘱し、委嘱状・記念盾を授与しました。

○「天の川銀河研究センター」設置記者会見を開催しました（１月 12 日）

１月１日、本学は、大学院理工学研究科附属組織として「天の川銀河研究センター」を発足させました。これを受けて、１月12日、記者会見を開催しました。

天の川銀河研究センターは、太陽系がある「天の川銀河」を集中的に研究する世界的水準の学術研究拠点として設置され、理工学系の研究者を中心に、医歯学系などを含む研究者15名で構成されます。記者会見では、半田利弘天の川銀河研究センター長が、「これまで本学で個々に取り組んでいた研究を組織化して国内外に発信することで、研究の活性化をはかりたい」とセンター設置の経緯や目的等を説明しました。

その後、前田芳實学長、本間俊雄理工学研究科長、岡村浩昭理学部副学部長、半田利弘センター長らが銘板除幕を行い、新しいセンターの設置を祝いました。

○南九州先端医療開発センター設置記者会見を開催（１月 15 日）

１月15日、本学は、大学院医歯学総合研究科に「南九州先端医療開発センター」を新設し、設置会見を開催しました。

南九州先端医療開発センターは、本学の基礎研究で創出される創薬・医療機器・再生医療製品等のシーズを、実用化（産業化）まで切れ目なく研究開発することを目的とし、平成30年度に医歯学総合研究科内に新設したものです。創薬に代表される先端医療開発・実用化の研究は、学術的に高い意義があるだけでなく、地域にバイオ創薬の企業・産業を創出することができれば、極めて大きな社会貢献にも繋がるという高い将来性・可能性を持っています。

会見では、前田芳實学長が「医療分野の研究開発においては、一貫したマネジメントや専門知見に基づく研究支援など高度の専門性が要求されます。本センターの設置が、本学の地域貢献活動をより一層推進していく契機となることをお約束します。」と挨拶を述べました。次いで、佐野輝医歯学総合研究科長の挨拶、小戝健一郎南九州先端医療開発センター長によるセンター概要の説明が行われ、「当研究科では、これまでもトップレベルの研究がなされてきましたが、その成果を社会に還元する仕組みが十分整備されていない現状がありました。今後は本センターが中心となり、学内・学外の機関との連携・協力により、創薬及び医療機器のシーズの効率的な実用化を目指します」と、発表しました。

○「薩摩黒膳弁当」がお弁当・お惣菜大賞 2019 弁当部門で全国２位を受賞（２月 22 日）

本学の教員と学外の研究者で構成される「黒膳研究会（※）」が監修した「薩摩黒膳弁当（株式会社城山ストアーが製造販売）」が、「お弁当・お惣菜大賞2019」（全国スーパーマーケット協会主催）の弁当部門で、最優秀賞に次ぐ、２位の優秀賞を受賞しました。

コンテストは２月13日～15日に幕張メッセで開催された「デリカテッセン・トレードショー2019」内での企画として実施され、全国から53,285件の応募があり、そのうち弁当部門には6,509件のエントリーがありました。

「薩摩黒膳弁当」は、鹿児島の黒食材（黒豚、黒米、黒酢など）をふんだんに使用しており、カロリー・塩分が控えめなことが特徴で、食物繊維やポリフェノールが豊富な健康志向の弁当です。

※「黒」を特徴とする鹿児島の食材の機能性を研究している学部横断のプロジェクトが「黒膳研究会」です。

○JA グループ鹿児島と食と農を中心とする分野で組織間連携協定を締結（３月４日）

３月４日、JA グループ鹿児島と鹿児島大学は、“食と農”を中心とする幅広い分野における相互の連携協力によって、経済のグローバル化、生産者の高齢化と後継者不足、人口減少など、農業を取り巻く様々な鹿児島の課題の解決を図っていくため、組織間の連携協定を締結しました。

JA 鹿児島会館で執り行われた協定締結式では、前田芳實学長と JA グループ鹿児島を代表して鹿児島県農業協同組合中央会の山野徹会長が協定書に署名しました。前田学長は、「JA グループ鹿児島が有する幅広いネットワークと農業や食品産業の情報等と本学の知的資源を有機的に繋げ、食と農を中心とする幅広い分野における様々な地域課題の解決を図っていく」と強調。続いて山野会長が「今回の協定締結を機に、鹿児島大学のすべての部局を横断した連携協力により、JA グループ鹿児島の基本目標である『農業者の所得拡大』『農業生産の拡大』『地域の活性化』の実現を目指す」と抱負を述べました。

今後、双方の関係者が参画して新たに設置する連携協力事業運営委員会を中心に、事業の企画立案及び実施等の進捗管理をしつつ、日本の食料基地である鹿児島の地域社会・経済の発展に向けた取組を組織的に展開していくこととしています。

○南九州市と包括連携協定を締結（３月 13 日）

３月13日、鹿児島大学と南九州市は、包括連携協定を締結しました。本協定は、それぞれの有する資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としたもので、鹿児島大学が「地域活性化の中核的拠点」を目指して地域との連携を強化する取組の一環です。

南九州市役所知覧庁舎において執り行われた調印式では、前田芳實学長と塗木弘幸南九州市長による協定書への署名に続いて、塗木市長が「南九州市の強みである農業や観光など幅広い分野において連携協力し、第２次総合計画に掲げる目標達成に向けたまちづくりを進めていきたい」と挨拶。続いて前田学長から、「今回の協定締結を機に、お茶をはじめとする農畜産物や観光資源など、豊かな食や伝統工芸、自然に恵まれた歴史ある南九州市との連携協働を強化し、『地域活性化の中核的拠点』を目指す大学として積極的に地域社会の発展に貢献したい」と抱負が述べられました。

本協定で、鹿児島大学が県内自治体と連携協定を締結するのは10例目となります。今後は、主に農作物、獣害対策、畜産、園芸、水産業などの分野で、産学・地域共創センターを中心とした活動を進めていく予定です。

○熊本大学と合同設置する「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」に関する協定を締結（３月 18 日）

３月18日、鹿児島大学と熊本大学は、熊本大学において、４月に両大学が合同設置する「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」の編成及び運営に関する協定を締結しました。

この「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」は、鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学研究センターを統合・再編し、その有する資源を有効に活用することによって、世界的課題である「難治性ウイルス（HIV-1、HTLV-1、HBV 及びその他の関連する難治性ウイルス）感染症」について、感染予防と治癒を目指した世界的・全国的な研究及び教育の総合的推進を図るために新たに設置するものです。

同センターは、単なる大学間の連携・協力による運営ではなく、両大学が一体となって運営する研究組織を設置するもので、各大学の抱える人的・財的問題を解消し、新たな研究拠点を構築・活性化するための画期的な取組みです。

同センターの合同設置により、新たなワクチンや治療薬の開発、若手研究者の育成、海外研究機関との連携強化など、難治性ウイルス感染症の撲滅を目指した研究及び教育が活発化することが期待されます。

協定書締結式では、前田芳實鹿児島大学長と原田信志熊本大学長が協定書に署名し、新センターの編成や運営に関する重要事項について、確認しました。

○平成 30 年度卒業式・修了式を挙行～ 2,532 人が巣立つ～（３月 25 日）

３月25日、鹿児島県総合体育センター体育館において、平成30年度鹿児島大学卒業式・修了式（第67回）を挙行しました。

今年度卒業・修了したのは、学部卒業者1,984人、大学院修了者548人の計2,532人です。式では、各学部・研究科の総代へ、学部長・研究科長から学位記が授与されました。また、前田芳實学長が、告辞の中で、本学の理念である「進取の気風にあふれる総合大学」について触れるとともに、進取の気風広場に設置された稲盛和夫名誉博士の銘文を紹介し、卒業後も日本および国際社会の様々な課題に果敢に挑戦してほしいとエールを送りました。

その後、法文学部３年の中村俊耶さんによる在学生総代送辞、工学部４年有馬真樹さんによる卒業生・修了生総代答辞が行われ、最後に会場の全員で斉唱された「北辰斜に」と「螢の光」により式が締めくくられました。

式中、本年度の優秀な学生を表彰する「鹿児島大学稲盛賞」（学部生15人、大学院生１人）と「鹿児島大学工業倶楽部賞」（大学院生２名）、鹿児島大学商工会議所会頭賞（学部生３名）の授与も併せて行われました。

○平成 31 年度入学式を挙行～ 2,540 名が入学～（４月５日）

４月５日、鹿児島県総合体育センター体育館において、平成31年度鹿児島大学入学式を挙行しました。

今年度の入学生は、学部学生1,964名、大学院学生576名の計2,540名です。当日は朝から雨模様でしたが、佐野輝学長が告辞の中でも触れたとおり、鹿児島において雨はめでたいことが起こる吉兆です（通称「島津雨」）。式では、佐野学長による入学許可に続き、学部代表の酒井大輔さん（農学部）と大学院代表の渦尾泰成さん（理工学研究科）が、それぞれ入学生宣誓を行いました。

学長告辞では、佐野学長が、かつて本学の学長を務めた井形昭弘 先生の著書の内容や、鹿児島がアジアと世界に開かれた南の玄関口であること、ならびに本学の海外研修や留学支援制度などに触れ、「進んで海外留学や海外研修の機会を得て、国際的視野の拡大と異文化理解を深め、自分の可能性にチャレンジしてほしい」と新入生を激励しました。また、本学の卒業生で、京セラ株式会社名誉会長の稲盛和夫 名誉博士の言葉を紹介し、「進取の精神を受け継ぐ決意を抱いてほしい」とエールを送りました。

その後、恒例となっている、鹿児島大学学友会管弦楽団、鹿児島大学混声合唱団ポリフォニーコール、鹿児島大学男声合唱団フロイデコール OB 楠声会による演奏が行われ、「ハレルヤ」、「北辰斜に」（大正４年第七高等学校第14回記念祭歌）、「火の島は」（鹿児島大学創立30周年記念歌）の盛大な合唱で新入生を歓迎しました。

○鹿大「進取の精神」支援基金寄附者銘板をリニューアルしました（４月 26 日）

このたび、学生・教職員等の交流施設である学習交流プラザ（郡元キャンパス）１階玄関ホールに「鹿大『進取の精神』支援基金寄附金寄贈者御芳名板」をリニューアル設置しました。

この銘板は、2015（平成27）年４月に創設した本基金の趣旨にご賛同いただき、ご寄附のお申し出のありました方々への感謝の意を表し、末永く顕彰するため設置したもので、個人の場合は20万円以上、法人・団体の場合は50万円以上の寄附者様のご芳名を掲示しております。本学へお越しの際は、是非学習交流プラザへお立ち寄り下さい。

また、氏名の公表を希望されない方からも多くのご寄附を頂戴しております。皆様からの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

○海外の大学等からの学長表敬訪問

①フランスのストラスブール市長一行（10月９日）
②米国のジョージア大学農・環境科学部長一行（10月23日）
③米国のマイアミ鹿児島姉妹都市交流促進委員会会長（11月12日）

鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Web サイトをご覧ください。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイト　http://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/

古本募金のご案内

鹿児島大学古本募金とは、皆様から読み終えた本・ＤＶＤ等をご提供いただき、その査定換金額が本学に寄附される取り組みです。寄附金は、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けた整備・充実に役立てられます。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Web サイトをご覧ください。

鹿児島大学古本募金 Web サイト　https://www2.kishapon.com/kagoshima-u/

遺贈によるご寄附のご案内

本学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携信託銀行をご紹介しております。提携信託銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。詳細につきましては、Web サイトをご覧ください。

本学への遺贈をご希望される場合は、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、提携信託銀行へ直接お問い合わせください。

【提携信託銀行（五十音順）】みずほ信託銀行 鹿児島支店／三井住友信託銀行 鹿児島支店

遺贈によるご寄附 Web サイト https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1353/izou.html

税制上の優遇措置について

本学へのご寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。また、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、個人住民税の税額控除が受けられます。なお、相続税申告期限内に遺贈により本学にご寄附いただいた財産については、相続税はかかりません。詳細につきましては、Web サイトをご覧ください。

お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101／ FAX 099-285-7034
E-mail　s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

１. 平成 30 年度法文学部卒業生・大学院修了生同窓会入会式及び卒業祝賀パーティー開催

平成31年３月25日（月）卒業式終了後14時15分より、ジェイドガンデンパレスにて約160名の卒業生及び教職員が参加して、平成30年度同窓会入会式及び卒業祝賀パーティーが開催されました。

同窓会入会式では、髙津学部長、仮屋同窓会長からお祝いの言葉があり、卒業生・修了生を代表して人文学科の久保花実さんが謝辞を行いました。同窓会表彰は法政策学科の西村湧征さん（2016年度全日本大学弓道大会団体戦ベスト４、2018年度九州学生選手権個人戦優勝）、経済情報学科の淵之上功介さん（第１回「かぎん未来創造プランコンテスト」において「空き家ゼロ段階活用事業」というプランを提案し、「アイディア部門特別賞」を受賞）、人文学科の福岡瑠青さん（2017年度九州国公立大学水泳選手権100メートルバタフライ優勝、2018年度鹿児島県水泳選手権50メートルバタフライ準優勝）の３名でした。３名の方には仮屋会長から表彰状と記念品が贈られました。祝賀パーティーは毎年、恒例の抽選会が行われ ipad タブレッドや JTB ギフトカードなど豪華賞品が当たった卒業生は大喜びでした。

２．法文学部同窓会宮崎県支部総会開催

平成31年１月26日（土）午後５時30分から宮崎市の「ホテルメリージュ」において支部会員36名が参加して宮崎県支部の同窓会が開催されました。桑水流宮崎県支部会長、今村・成清法文学部同窓会副会長、北﨑法文学部副学部長の挨拶に引き続き、昨年の大河ドラマにちなみ宮崎公立大学の有馬学長（法文学部同窓生）に「西南戦争と宮崎」のテーマで講演していただきました。懇親会では、平成30年卒業の新会員を始め、自己紹介や近況報告など笑いあり、涙ありの懇親会でした。最後に稲留さんによる恒例の巻頭言のあと「北辰斜めに」を斉唱して賑やかに閉会となりました。また、来年も多くの同窓生を囲んで同窓会が開催されることを楽しみにしております。

３．第 12 回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ開催

平成31年２月23日（土）第12回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。当日は天気にも恵まれ、平成８年卒の福田和仁さんが見事、優勝、ベストグロス賞も獲得しました。唯一の女性、石塚朝乃さんも５位入賞でした。なお、参加者は45名でした。

優　　勝	福田　和仁（Ｓ８年・法文学部経済学科卒）	ネット	７３．４
２　　位	畠野　秀之（H53年・法文学部経済学科卒）	ネット	７４．４
３　　位	木場　　晃（Ｓ41年・文理学部理学科卒）	ネット	７４．４
ベストグロス	福田　和仁（Ｓ８年・法文学部経済学科卒）	グロス	８３．０

●第13回大会　2019年10月19日（土）南国カンツリークラブ皆様、奮ってご参加ください。

教育学部同窓会

鹿児島の教育を語る開催される

同窓会主催「鹿児島の教育を語る」が平成30年11月30日（金）16時10分から教育学部大会議室で開催された。今年度のテーマは昨年に続き、「未来への挑戦」という題で行われた。

最初に石神会長、続いて上谷順三郎学部長のご挨拶があり、各会場に分かれて協議が行われた。各会場で出た主な感想や意見等を挙げると

①良い意味で印象的な先生になりたい。そのことの大切さを知ることが出来た。
自分の目指す教師像をもう一度、見直してしっかりと固めてゆきたい。

②学生も委縮することなく様々な意見や考えを述べたり聞けたりして有意義な時間を過ごせた。学生とOBの人数の比率はこれでよい。懇親交流時間が短かった。他の学生・OBとも話してみたかった。

③「教育原理」が大切だということを感じた。だから、大学での講義を大事にしてゆきたい。失敗や回り道が正解になるかは自分次第だということ。会で先輩方だけでなく様々な意見を聞くことが出来たことはとても勉強になった。

④大学の講義では聞くことのできない内容を知る機会になった。テーマに基づいた話し合いになったか少々疑問だが、より良い教師を目指すことが「未来への挑戦」ではないかと思った。

⑤美術は美しいものを美しいと感じられるような心をもてるような指導をすること。先輩方も葛藤した時期があったこと。体験することの大切さ等々を学んだ。

⑥経験を積み重ねた先輩の話はすごく心に響いた。その中で、「教師のやりがい」とは、教えることよりも生徒や地域」の人の関わりが大きいと感じた。自分もそういう教師を目指したい。要望として、同じ専門の先生方とお話しする時間や機会を増やして頂きたい。

⑦「信頼される教師」「良い授業づくり」について主に話し合った。子どもたちや保護者、地域の人々に本気で向き合うこと、子供や親に嫌われたくない、好かれたいという気持ちで接すると失敗する等、多くのことを学ぶことが出来た。

「鹿児島の教育を語る会」開会行事

「鹿児島の教育を語る会」全体会

「鹿児島の教育を語る会」グループ協議

「鹿児島の教育を語る会」交流懇親会
（同窓会の歌「我が友よ」の斉唱）

理学部同窓会南明会

理学部長就任のご挨拶

理学部同窓会顧問　岡村　浩昭

国内外でご活躍中の同窓生の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。2019年４月より理学部長の任に就きました岡村浩昭です。就任のごあいさつに代えて、理学部の近況をご報告申し上げます。

皆様ご承知の通り、現在の理学部は1997年の教養部廃止に伴って４学科（数理情報科学科、物理科学科、生命化学科、地球環境科学科）で教育研究を行っていますが、2020年度から学科を集約し、理学部理学科へと改組する予定です。大学院も同様に理工学研究科理学専攻へと生まれ変わります。学生定員はこれまで通り、１学年185名（大学院博士前期課程は１学年64名）です。

昨今、社会情勢は大きく変化しています。特に情報技術の飛躍的な進歩は、第４次産業革命と呼ばれるほどの影響を与えており、必要とされる職業や技術も大きく変わると予想されています。

私は、このような変化の激しい時代であればこそ、理学部の果たすべき役割は大きなものになると考えます。理学部の本質である真理の探求はどのような社会においても普遍的に必要とされるものです。また、基礎的な理学にしっかりと軸足を置き、学問の発展に貢献できる「研究する能力」を持った学生は、社会がどのように変わっても変化に対応して時代をリードすることができるでしょう。そのような研究を行い、優れた学生を育てることが、現在の理学部に課せられた使命です。

そのために、今回の改組では学科の枠を取り払い、教育と研究の自由度を高める体制を作りました。学生は１年次に基礎的な理学全般を学んだ後、２年次から本格的な専門教育を受けることになります。また、大学院進学を目指す学生のために、１年次から研究室に配属して高度な教育を受け、４年次には大学院の講義を先取りできるコースも新設しました。

今後の日本は人口減少に伴って、大学を含めた社会全体が厳しい時代に入っていくことが予想されます。そのような中で理学部の「研究する能力」の重要性はますます大きくなります。理学部同窓会の諸兄姉の皆様には、今後もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

医学部同窓会

カード決済の導入

医学部医学科同窓会鶴陵会　会長　髙松　英夫

以前にカード決済導入計画を紹介しましたが、ようやく実現にこぎ着けましたので改めて報告します。

カード決済の導入は鶴陵会の活動をさらに広げていくためには必要なことと考えています。これにより、入会金・会費納入率のさらなる改善、協賛金（寄付金）の納入増加などの効果を考えています。現在の入会金・会費はかなりの率で納入していただいておりますが、学生数による上限があります。年間の計画はこの予算で規定されるため、事業拡大を目指すためには支出削減、収入増を目指す必要があります。収支改善のために會報の出版に当たって複数社からの見積もりを取り、広告の掲載など、できる限り會報発刊にかかる経費を抑える様に努力しています。いったん中断している奨学金貸与制度を再開するためには入会金・年会費以上の収入を確保する必要があります。支部からカード決済の導入の提案があり、検討を始めました。既に鹿児島大学が寄付に対してカード決済を導入していたこともあり、大学事務に相談の上、名簿作成などを依頼している某社に決定しました。遅れた理由はわれわれ事務局の決断以外には無く、作業そのものは業者にお願いするだけなので準備はスムースに進みました。世の中はキャッシュレス時代へと遷りつつあり、支払う方に対しても従来の振り込みオンリーよりは選択肢を広げるという点では意義があるものと思われます。問題としては、従来振り込み費用は当人負担であったものが同窓会負担となること、どの程度の利用者があるか不明である事などの問題があります。具体的には初期手続き、月々の使用料、決算代行加盟店への手数料（決算額の６％）などがかかります。

この２～3年間の利用状況を注視し、手数料も含めた年間経費を上回る収入があれば継続することを考えています。

保健学科同窓会の活動報告

保健学科同窓会理学療法学専攻部会　会長　宮崎　雅司

今年も四月にありました連合会同窓会に参加させて頂きました。今年は作業療法学専攻部会の中村会長と宮崎の二人で参加でした。例年と比べ各同窓会の参加者も増え、若い同窓生も多くなっていることが印象的でした。平成も終り、令和となり新しい年号でこれからの鹿児島大学のスタートを感じました。

理学療法学専攻部会は、今年度退官される先生がいらっしゃり、寂しい年となりそうです。作業療法専攻部会は、今年は保健学科の前身である医療技術短期大学の作業療法学科の先輩方と同窓会を合同で行う予定です。

大学を通じ、たくさんの御縁を頂き、タテのつながり、ヨコのつながりを作ることが出来ました。今後とも同窓会を通じ、昭和、平成、令和の時代と世代をつなぐ同窓会にしていきたいと思います。

歯学部同窓会

平成30年

11月８日（木）	進路相談会が開催された パネリスト　濱崎朝子先生・後藤理恵先生・田實仁先生
11月17日（土）	歯学部同窓会総会・学術講演会・懇親会　開催（天文館リバティークラブ）
11月25日（日）	鹿児島大学歯学部創立40周年記念行事･･･鶴陵会館、鹿児島サンロイヤルにて同窓会役員、顧問など多数参加）
11月27日（火）	解剖慰霊祭　村上会長出席
12月19日（水）	歯学部教授会との忘年会に出席

平成31年

２月９日（土）	九州５大学連絡協議会に出席（福岡駅前 ARK ビル）
３月25日（月）	学位記授与式・卒業謝恩会開催
３月30日（土）	第一回評議委員会開催

平成 30 年度歯学部同窓会総会・懇親会

平成30年11月17日（土）に天文館リバティークラブにて開催された。

35期が卒業し会員数は2113名になったこと、30年度に「進取の精神基金」に300万寄付したことなどの報告がなされた。また、歯学部を中心として「南九州歯学会」を設立したいとの提案や同窓会会費の値上げ、女性会員への同窓会事業展開などについて協議された。

総会終了後、同窓会奨励賞を受賞した中村康大先生、富田和男先生の講演をしていただいた後、懇親会を行った。

懇親会には、大工原泰名誉教授、三村保名誉教授はじめ、現役教授現役教授10名（同窓生２名含む）、開業医30名、大学など勤務医12名、大学院生２名、進路相談会に参加した５年生42名など総勢98名の参加があり、世代を越えた楽しい飲み会となった。

工学部同窓会

工学部同窓会では、工学部の学生会員の諸活動と幅広い交流の助成を目的とした“工学部同窓会学生活動助成金”および工学部、理工学研究科、工学部同窓会の発展に資する諸活動の支援を目的とした“工学部同窓会諸活動支援”を創設しています。以下に、平成30年度の助成・支援内容についてご報告いたします。

工学部同窓会学生諸活動助成金（平成 30 年度実績）

平成30年６月９日　環境化学プロセス工・化学生命工　ソフトボール大会（54名）
平成30年10月９日　建築学科１年生と教員の懇親会（70名）
平成30年10月17日　海洋土木工学科　研究室配属、進学・就職相談会（95名）
平成30年11月10日　秋季環境化学プロセス・化学生命工学　ソフトボール大会（90名）
平成30年11月24日　工学部体育祭
平成30年12月１日　第49回電気電子工学科バドミントン大会（36名）
平成31年３月22日　平成30年度機械工学科卒業・機械工学専攻修了記念パーティー（146名）

工学部同窓会諸活動支援

平成30年10月６日　AOI 会　建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」（180名）
平成30年10月20日　南窓舎密会　講演会「先輩の話を聞いてみよう」および演者・学生等交流会（107名）
平成30年10月27日　錦水会　学生向け講演会「きばっど会」（170名）
平成30年11月28日　しらなみ会　海洋土木工学科　卒業生による講演会（65名）
平成31年３月５日　機友会　学生と若手技術者との交流会（112名）

（文責：工学部同窓会庶務幹事　酒匂　一成）

建築学科１年生と教員の懇親会

しらなみ会　海洋土木工学科　卒業生による講演会

農学部あらた同窓会

農学部あらた同窓会では年２回の会報（一般会員および学生会員向けの春季号：３月卒業式当日発行と、主として学生会員向けの秋季号：11月23日発行）を発行しています。今年の春季号は、2019年が鹿児島高等農林学校開学から110周年にあたることから、通常の「一般記事」に加えて**「開学110周年記念特集ページ」**を組み、50ページの増ページとして発行しました。例年の春季号は会費納入者、旧賛助会員、終身会員、80歳以上の会費納入免除者および会費未納者のうち卒業後経過年数が５年毎の住所判明者の合計で約３～４千人に送付していましたが、昨年７月に会員名簿を発行し、住所判明者が７割以上に上がったことから、今回の春季号は住所判明者全員に頒布することにいたしました。記事の詳細は「あらた同窓会報平成31年春季号」をお読みください。また、あらた同窓会 HP（URL：http://aratadousokai.org/）にも記事をアップしておりますので、ご覧ください。以下に主要な記事の概要をご紹介いたします。**鹿児島大学農学部あらた同窓会藤田晋輔会長のご寄稿**：「今年も同窓を送り、新たな同窓を迎える日がきました」に続き、**次期学部長のご挨拶**：今年４月１日付けで農学部長にご就任された橋本文雄先生（農業生産科学科・応用植物学講座・観賞園芸学研究室）のご挨拶、**退職される恩師のご寄稿**：いずれも農林環境科学科所属で３月31日付けで定年退職された３人の先生方、岩崎浩一先生「農学部での28年間」、藤澤義武先生「鹿児島大学に学ぶということ」、服部芳明先生「仕合わせを感じさせていただいた27年間」をいただいた。昨年11月23日開催のあらた同窓会総会での**講演録**「パッションフルーツ（*Passiflora edulis*）における高品質果実安定生産のための最適環境条件解明に関する研究」（島田温史氏、院 H26修了）に引き続き、**「支部総会」（「支部便り」から）**：平成30年度は、以下の５支部（職域）の総会が開催された。**①近畿・兵庫あらた会**（平成30年５月27日）：出席者17名。**②佐賀あらた会**（平成30年６月９日）：出席者30名。**③熊本あらた会**（平成30年11月９日）：出席者：35名、**④鹿児島支部総会**（平成30年10月19日）：出席者はボウリング大会43名、総会46名。**⑤鹿児島市役所職域**（平成31年２月６日）：出席者70名（記事の掲載は無し）。**「クラス会・グループ便り」から① F31同窓会終幕の記、②國分禎二先生の米寿を祝う会（育珍会）、「学生便り」、「恩師・同窓のお慶びならびに訃報」、「本部便り」を掲載した。**その後段に、「鹿児島大学農学部開学110周年記念特集」記事を掲載した。「110周年記念特集」には、以下の方々（敬称略、掲載順）にご寄稿をいただいた。**藤田晋輔（林・昭37卒）、前田芳實（畜・昭42卒）、林満（蚕・昭35卒）、加藤高明（化・昭52卒）、坂口哲夫（林・昭49卒）、内田昭（獣・昭25卒）、日高康貴（獣・昭37卒）、濱脇吉乃夫（農・昭37卒）、松岡尚二（畜・昭57卒）、辻野聡（林・平２卒）、山下修司（農・昭56卒）、川瀬大三（農・昭46卒）、東（星子）正隆（総農・昭38卒）、佐野岩男（農・昭49卒）、田中隆義（農・昭59卒）、八幡正則（農・昭26卒）、岩元泉（旧賛助）、冨永茂人（園・昭48卒）、岩井久（農・昭55卒）。**

「あらた同窓会」では**毎年11月23日に「総会」**を開催しています**（下記ご参照）**が、今年は農学部と共催して**「開学110周年ミニ式典」**を行い、そこで、５年ごとに実施している**「功労者表彰」**も行うことにしています。

「令和元年度　鹿児島大学農学部あらた同窓会総会」のお知らせ

１．日　時　令和元年11月23日（土）勤労感謝の日　15時から

２．場　所　ジェイドガーデンパレス（旧　翠園閣）

鹿児島市上荒田町19-1　電話099-257-1211

水産学部同窓会魚水会

魚水会・全国定期総会 2019 鹿児島大会終了する

鹿児島と福岡、東京、大阪とローテーションで開催される鹿児島大会は４年に一度オリンピックの前年に鹿児島でされます、今回は令和が始まった最初の年で令和元年６月８日（土）に鹿児島ジェイドガーデンパレスにて全国より女性を含めて155名が出席し盛大に開催されました。

第一部は定期総会、第二部は講演会、第三部は恒例の懇親会が楽しく開催されました。

定期総会は辻口忠男事務局長（43年経営）の司会で始まり、まず亡師亡友のご冥福を祈り黙とうを捧げて審議が始まりました。議長は石川正文福岡支部長（47経営）で進められ、岩元善巳会長（46漁）の挨拶があり、続いて鬼丸久徳専務理事（47漁）の29年度、30年度事業報告、次に令和元年、二年の事業計画や会則の一部改正、役員改正案など丁寧な説明があり、すべて原案通り可決され、新しい年度がスタートしました。主な点は若年会員、女子会員の取り込みなどでした。各支部総会の出席者で卒業３年（今まで２年まで）までと女子会員の出席者には本部より一人5000円の補助を出すことが決定しました。

魚水会 2019 鹿児島総会風景

第二部は歌手の南こうせつの兄で自分も CD 歌集を発表するなどお坊さんシンガーソングライターの禅宗曹洞宗の大分の勝光寺16代住職の南慧照（えしょう）さん（41製造卒）が兄弟の話や弟が跡を継いでいたので自分はキューピーのサラリーマンで終わろうと思っていたら弟が52才で亡くなり、仕方なく跡を継いだ経緯やウイツトに飛んだ健康講和など楽しい話をされて、最後は自分で作詞作曲した得意の歌を披露されました。世間では歌は弟（南こうせつ）より上手いと聞いたことがあるけど、まんざら嘘ではないような実力でした。

講演会　講師大分勝光寺16代南慧照住職

最後は青春に帰りスクラムを組んで歌う

第三部懇親会は佐久間美明水産学部長が水産学部の現状などの話をされて、窪田洋司（関東ブロック長、魚水会副会長）の乾杯の音頭で宴が始まり、盛り上がった頃、全国から各地の土産物などの抽選会があり、ほとんどの人達が当たりました。最後は全員肩を組んで『水産学部歌』や『かごしま丸出港の歌』などを槙田栄祐理事（43増殖）の巻頭言で皆、青春に返り大声で歌いました。次期開催県で議長を務めた石川正文さんが次の総会の福岡大会もよろしくと挨拶し、吉原芳文鹿児島支部長（魚水会副会長）の万歳三唱で最後を締め余韻を残して散会になり、天文館の街へ繰り出して行きました。

共同獣医学部紫友同窓会

１．ベストクラスメート賞

平成最後の卒業式が３月25日に挙行されましたが、本学部からは31名が巣立って行きました。彼らがこれからの獣医療界を牽引する活躍を見せてくれることを期待しています。

当日の午後に行われた学部の学位記授与式において、同窓会としてベストクラスメート賞を授与しました。これは卒業までの６年間にクラスのまとめ役を熱心に行った男女会員１名を表彰するもので、今年度は濵田悠平、下田真優の両氏に新納会長から賞状と記念品が手渡されました。

２．卒業記念パーティー

卒業式当日の夜に、学部と共催して卒業記念パーティーをザ・ピーク　プレミアムテラスで開催しました。式には教職員も合わせて約70名が出席し、同窓会からは会長、副会長、顧問の４名が参加して、卒業生の門出を祝いました。宮本学部長の祝辞に引き続き、新納会長からは同窓会への入会を歓迎する言葉とともに社会で役立つコミュニケーションの仕方がはなむけの言葉として贈られました。また、卒業生を代表して畠中大地君から謝辞が述べられました。短い時間ではありましたが、和やかなうちにパーティーは終了しました。

３．事務局会議

５月29日（水）に学部内で事務局会議を開催し、評議員会で審議する議題及び報告事項について検討しました。その後場所を学外に変えて、会長を囲んで懇親会を開催しました。

左から下田真優さん、宮本学部長、新納会長、濵田悠平君

祝辞を述べる新納会長

卒業記念パーティー出席者全員で記念撮影

▶特別寄稿文◀

思えば鹿児島大学歯学部活動、長期の33年

歯学部同窓会副会長　佐藤　友昭（平成４年卒業）

同窓会活動は一面においては、何故、協力しなければならないのか分かりにくいところがあるのだと思います。そのために鹿大学内で、２番目に若い歯学部は、同窓会の運営に苦労しているところがあります。私自身も歯学部創立40周年において感じたところがありました。

鹿児島大学歯学部は、昭和52年に創立され、一昨年の平成29年で創立40周年を迎えました。今回は、余り盛大には行わず、予算もそれ程かけない方針でしたが、学長、理事、学内の多くの先生方、県知事をはじめとした多くの地域団体の方々、国際交流協定校関係の方々、文科省、厚労省、歯科医学関連学会の方々にご出席頂いた事は歯学部のこれまでの功績を認めて頂いたと大変嬉しい思いと同時に先人達への感謝があります。40年を経過し、歯学部に在籍した多くの先生、学生がここから巣立ち日本や海外で活躍しております。業績が認められ、表彰されたり、叙勲を受けたり、組織で重要な地位のある方を多く輩出しておりますし、目に見える形の功績が無くても医療のため患者さんの為、人類の為と忙しい日々を送る事を僕らはできます。このような人材育成こそが、歯学部の使命であり、その手助けをするのが同窓会の使命であろうと改めて思った次第です。「一粒万倍」という言葉がありますが、同窓会活動はそれを信じなければやっておれません。記念式典時に関東支部長が私に話された「40年経って、やっと鹿大学歯学部卒業生と言う事に誇りを持ててきた」と言う事が非常に印象に残っております。私もほぼ同じ時期の卒業生でしたので、鹿大学歯学部卒業という印象が何となく同じものだったのかも知れません。私にとって、記念すべき歯学部創立40周年の時期に巡りあった事、創立40周年記念事業実行委員会の委員長をさせて頂いた事は大変名誉なことでしたが、一方では、今後の歯学部の行く末や同窓会活動に対する責任を感じざるを得ませんでした。歯学部の先人達には感謝のお返しはできませんが、将来ある後進にしてあげられることは、同窓会には多いと思います。故に、同窓生が鹿大学歯学部に進んで協力してくれる様な歯学部の益々の発展、誇りに思えるような学部作り等、黙っていても人が集まるような同窓会にしたいものです。私も歯学部が益々地域、国際社会で活躍をしていると同窓生に認知して頂けるための一助として、自分の教員としての活動が今後、同窓会運営に役に立てられれば、幸甚の極みと思った次第です。

式典開会時の学生による弦楽四重奏曲

前田学長よりご挨拶を頂きました

▶特別寄稿文◀

自然と向き合う土木工学系学科の中で
国立大学唯一の学科「海洋土木工学科」の設立秘話？

工学部海洋土木工学科教授　武若　耕司（昭和52年卒業）

鹿児島大学工学部は、第２次世界大戦終戦間際の1945年４月に設立された鹿児島県立工業専門学校をその礎とし、戦後の混乱期の廃校の危機を乗り越えて1949年４月に鹿児島県立大学工学部として新たに船出し、1955年に国に移管されて、現在の鹿児島大学工学部となりました。そして、来年の2020年で75周年の節目を迎えることとなり、昨年、工学部内に、創設75周年記念事業部会が立ち上がったところでもあります。

また、この間の組織の体制については、県立工業専門学校当時は、機械学科、電気学科、建築学科、ならびに化学工学科の４学科（学生定員全学科併せて100名（各学科25名））で出発しましたが、今日の工学部（平成29年度１月現在）は、機械工学科、電気電子工学科、建築学科、環境化学プロセス工学科、海洋土木工学科、情報生体プロセス工学科、化学生命工学科の７学科となっており、学部学生数は2000名を超え、鹿児島大学の中でも最大の学生数を有する学部となっています。

さて、筆者は、1973年に工学部の８番目の学科として設置された海洋土木開発工学科（後に、海洋土木工学科と名称変更して改組）の１期生として入学しました。1973年と聞くと、皆様の中にはご記憶の方も多いかと思いますが、「第１次オイルショック」が起こった年です。1965年から1970年までの約５年間にわたって続いた「いざなぎ景気」により、わが国は、他国に見られないほどの高度経済成長を達成し、これによって、産業構造は大きく変わり、これまで主体であった第１次産業の比重が低下して、その経済は、第２次産業と第３次産業に依存する状況となりました。さらには、1972年に内閣総理大臣となった田中角栄氏が主導した「日本列島改造論」によって、結果的には、地価や物価の急上昇を招く状況も引き起こすことにはなりましたが、一方で、日本列島を高速道路・新幹線・本州四国連絡橋などの高速交通網で結び、地方の工業化を促進し、過疎と過密の問題と公害の問題を同時に解決できるとするアイデアは、当時まだ高校生であった筆者でさえも、国をより豊かにするための施策としての「列島改造」という言葉の響きが非常に魅力的に感じました。そして、人々が快適に過ごせるための住宅や、橋や道路・トンネル等の土木あるいは建築構造物を設計してみたいという思いが、沸々と湧いてきたことを、今でも懐かしく思い出します。

かくして、筆者は、1973年４月に、何とか、「海洋土木開発工学科（当時）」に入学することが出来ましたが、実は、その喜びも束の間、この学科に入学した１期生35名（定員50名）にとっては、将来への希望・期待を大きく揺るがすような新たな試練が、待ち受けていました。それが、この年の秋に発生した第１次オイルショックでした。これは、第４次中東戦争が原因で、原油の価格がそれまでの約４倍にまで急騰し、当時列島改造論ブームでインフレが進行していた状況の中で、わが国の国際収支は赤字となり、「狂乱物価」と呼ばれるほどに、日本経済は、急激な景気の低下に陥ってしまったのでした。そして、今にして思えば、このオイルショックの影響は、新設された海洋土木開発工学を新たな学問体系として魅力あるものにしようと努力なされていた、当時の学科の先生方の腰を折ることにもなったのであろうと、思うところでもあります。

すなわち、まず問題となったのは、学科開設当時、授業や実験を行うための校舎がなかったことでした。確か、入学式を終えて１か月ほど経過したころに、先生方等から、我々学生が通うであろう海洋土木棟の説明がありました。その時の説明では、「海洋土木棟は２つの棟からなり、実験設備も充実し、海洋波浪のシミュレーションを行うための日本最大級の装置を持つ実験棟も設置することになっている」等といった、今、思い出してもワクワクするような、話がありました。そして、我々１期生が３年になった夏ごろに、やっと、海洋土木棟は完成しましたが、その建物の外観は、他の学科棟のようにタイル張りの外壁ではなく、コンクリートが打放し状態で、塗装なども施されていないものでした。また、建物の東側のスラブの端部からは、鉄筋がむき出しの状態で出ていたのでその理由を聞くと、「今回建設された建物の東側部には、別棟を建設予定であるが、オイルショックの影響で予算が確保できなくなったため、すぐに東側棟を建設できなくなった。これらの鉄筋は、今建てられている西側棟と今後建設される東側棟とを繋ぐためものである。」との説

明を受けました。しかし、結局は、その後45年を経過した現在まで、２棟目の建物は建設されずじまいでした。これもまた、オイルショックのなせる業と、思うしかないですが、それでも、まがりなりにも、我々の念願であった海洋土木棟が出来上がった時の喜びは、45年が経過した今でも鮮明に記憶に残っています。

もう１つ、オイルショックは、４年後の大学卒業時の我々学生の進路についても大きく影響を及ぼす事態となりました。すなわち、内需が滞り不況に陥った建設業界には、新たな人材を十分に確保する余裕はなく、ましてや、今まで我が国のどこにもない学科名で、当然、就職希望先には先輩もいない状況の中で、「海洋土木開発工学科」の卒業生を直ぐに受け入れてくれるような企業は中々ありませんでした。

一方、学生側は入学時から、この学科を卒業した暁には、これまでの土木工学の枠を超えた海洋土木工学という新たな建設分野で、構造物の設計や施工、あるいは研究・技術開発等にチャレンジできることを心待ちにしていました。それだけに、当時の学科の先生方も、このような学生の思いを酌んで、いろいろな伝手をたどりながら、学生一人一人の就職相談に対応していただいたことが、今でも強く記憶に残っています。

また、私自身が、卒業して５年後に、今度は教員という立場で海洋土木の教壇に立ち、直接、学生に接することになって、初めて、本学科設立当時の先生方の学科運営や学生との対応におけるご苦労が並みたいていのものではなかったであろうことを、しみじみと思った次第です。

最後になりましたが、当時の先生方御一人、御一人のお顔を思い浮かべながら、それまで他大学にはなかった、新しい学科である海洋土木開発工学科に入学して教育を受けた学生の一人として、設立当時の先生方のご指導に、あらためて感謝申し上げます。また、それとともに、これまで先生方によって構築していただいた海洋土木工学科の在り方、そして学生の教育の方針などをベースとして、今後も、我々、そしてさらに若い世代の先生方が順次これを引き継ぎながら、より良い海洋土木工学科の教育・研究の在り方を模索し、次世代へと、繋げて頂きたいと思うところです。

写真：海洋土木開発工学科（現：海洋土木工学科）一期生ならびに当時の教員

平成 30 年度一般会計決算書

（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

平成 31 年 3 月 31 日現在

（単位：円）

収入の部

項目	予算額（A）	決算額（B）	増減（B）－（A）	備考
繰越金	81,970	81,970	0	
学部別同窓会分担金	800,000	900,000	100,000	共同獣医学部加入による増
総会・懇親会費	1,105,000	1,183,000	78,000	6,500 円× 182 名分
OB ゴルフ大会協力金	50,000	50,000	0	
雑収入	5	4	－ 1	利子
繰入金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
合計	2,036,975	2,214,974	177,999	

支出の部

項目		予算額（A）	決算額（B）	増減（B）－（A）	備考
会議費		100,000	98,447	－ 1,553	幹事会・役員会
総会・懇親会費		1,110,000	1,190,676	80,676	総会会場費・懇親会費
印刷費		500,000	472,284	－ 27,716	会報26号､27号（支部分含む）
人件費		120,000	120,000	0	事務員給料
事務費	備品費	5,000	4,645	－ 355	名札、ゴム印
	通信運搬費	25,000	28,182	3,182	郵送料、DM 便代、振込手数料
	消耗品など	5,000	5,327	327	コピー用紙 など
旅費		40,000	40,000	0	福岡
雑費		10,000	1,410	－ 8,590	残高証明手数料、駐車場代
慶弔費		30,000	43,200	13,200	理学部創設記念生花、葬儀供花
予備費		91,975	19,920	－ 72,055	「きばいやんせ鹿大生 2018」打合せ会費
合計		2,036,975	2,024,091	－ 12,884	

次年度繰越金：2,214,974 － 2,024,091=190,883 円

平成 30 年度定期貯金決算書

（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

通帳（郵便定期）	400,000
郵便定期貯金利息	100
合計	400,100

平成31年度一般会計予算書

（2019年4月1日～2020年3月31日）

（単位：円）

収入の部

項目	前期決算額（A）	予算額（B）	増減（B）－（A）	備考
繰越金	81,970	190,883	108,913	2018 年度繰越金
学部別同窓会分担金	900,000	900,000	0	振込手数料は振込者負担に
総会・懇親会費	1,183,000	1,170,000	－ 13,000	180 名× 6,500 円
OB ゴルフ大会協力金	50,000	50,000	0	
雑収入	4	5	1	利子
繰入金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
合計	2,214,974	2,310,888	95,914	

支出の部

項目		前期決算額（A）	予算額（B）	増減（B）－（A）	備考
会議費		98,447	100,000	1,553	幹事会・役員会
総会・懇親会費		1,190,676	1,260,000	69,324	総会会場費・懇親会費
印刷費		472,284	500,000	27,716	会報 28 号､29 号（支部分含む）
人件費		120,000	0	－ 120,000	事務局総務課へ移行の為
事務費	備品費	4,645	10,000	5,355	
	通信運搬費	28,182	30,000	1,818	郵送料、振込手数料
	消耗品など	5,327	10,000	4,673	コピー用紙など
旅費		40,000	50,000	10,000	福岡
雑費		1,410	10,000	8,590	
慶弔費		43,200	30,000	－ 13,200	
予備費		19,920	310,888	290,968	
合計		2,024,091	2,310,888	286,797	

平成31年度定期貯金予算書

（2019年4月1日～2020年3月31日）

通帳（郵便定期）	400,100
郵便定期貯金利息	32
合計	400,132

平成31年度　鹿児島大学同窓会連合会総会・懇親会～卒業生の集い～を開催

４月６日（土)、城山ホテル鹿児島において、総会ならびに懇親会～卒業生の集い～が開催されました。

総会では、以下の事項について協議が行われました。協議終了後、７期14年の長きにわたり同窓会連合会会長を務め、同会の発展に多大な貢献をされた江口前会長から退任の挨拶がありました。また、新会長に選任された冨永茂人会長から新任の挨拶、さらに、４月１日付けで鹿児島大学長に就任した佐野学長から所信表明がありました。

その後の懇親会～卒業生の集い～には、関東支部の今村彬会長や福岡支部北辰斜の会の宗稔会長など200名を超える出席者があり、各学部同窓会の近況報告や出席者紹介などが行われ、盛会のうちに終了しました。

＜総会協議事項＞

1　開会のあいさつ
2　鹿児島大学同窓会連合会長のあいさつ　　江口正純 会長
3　鹿児島大学長のあいさつ　　佐野　輝 学長
4　協議
　1）平成30年度事業報告（案）　2）平成30年度収支決算（案）　3）平成30年度監査報告
　4）平成31年度事業計画（案）　5）平成31年度収支予算（案）　6）役員改選について
　7）会則改正（案）について
5　鹿児島大学新学長の所信表明
6　閉会のあいさつ

＜総会・懇親会～卒業生の集い～の様子＞

総会

懇親会

教育学部

歯学部同窓会

農学部同窓会

女性会員

全員で「北辰斜に」大合唱　♪

鹿児島大学同窓会連合会並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会
〒 890-8580
鹿児島市郡元１－２１－２４
鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101　FAX 099-285-7034
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会
〒 890-8544
鹿児島市桜ヶ丘８丁目３５－１
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会
〒 890-0065
鹿児島市郡元１－２１－３０
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211　FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会
〒 890-0065
鹿児島市郡元１－２１－４０
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会
〒 890-0065
鹿児島市郡元１－２０－６
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会
〒 890-0065
鹿児島市郡元１－２１－２４
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail aratakai@mc2.seikyou.ne.jp

鹿児島大学理学部同窓会南明会
〒 890-0065
鹿児島市郡元１－２１－３５
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会
〒 890-0056
鹿児島市下荒田４－５０－２０
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会
〒 890-0075
鹿児島市桜ヶ丘８－３５－１
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881　FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会
〒 890-0065
鹿児島市郡元１－２１－２４
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3538/8711（FAX 兼用）
e-mail k2088185@kadai.jp

鹿児島大学
同窓会連合会

〒 890-8580　鹿児島市郡元１－２１－２４
鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101　FAX 099-285-7034
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷　斯文堂株式会社
〒 891-0122　鹿児島市南栄２丁目 12 － 6
TEL 099-268-8211　FAX 099-269-5198
e-mail info@shibundo.jp